

Hataraku(work)
 Kurasu(live)
 Sasaeru(support)
 That is to say
 Kobushi Network

We are social workers!

グッとくるよ

こぶしだより



特集

平成二十三年度

事業報告&決算

- ・一般就労者の現在
- ・ギャラリーこぶし
- ・たまみシュラン
- ・君はぼくのトモダチ
- ・こぶしづかん
- ・社会モデルを地域文化に(連載)



第2 けやき作業所で力を入れている販売活動
 今回は、ゆいの杜ガーデンセンター(宇都宮市刈沼町)に伺いました。

【企画】 社会福祉法人こぶしの会
 【編集】 こぶしだより編集委員会

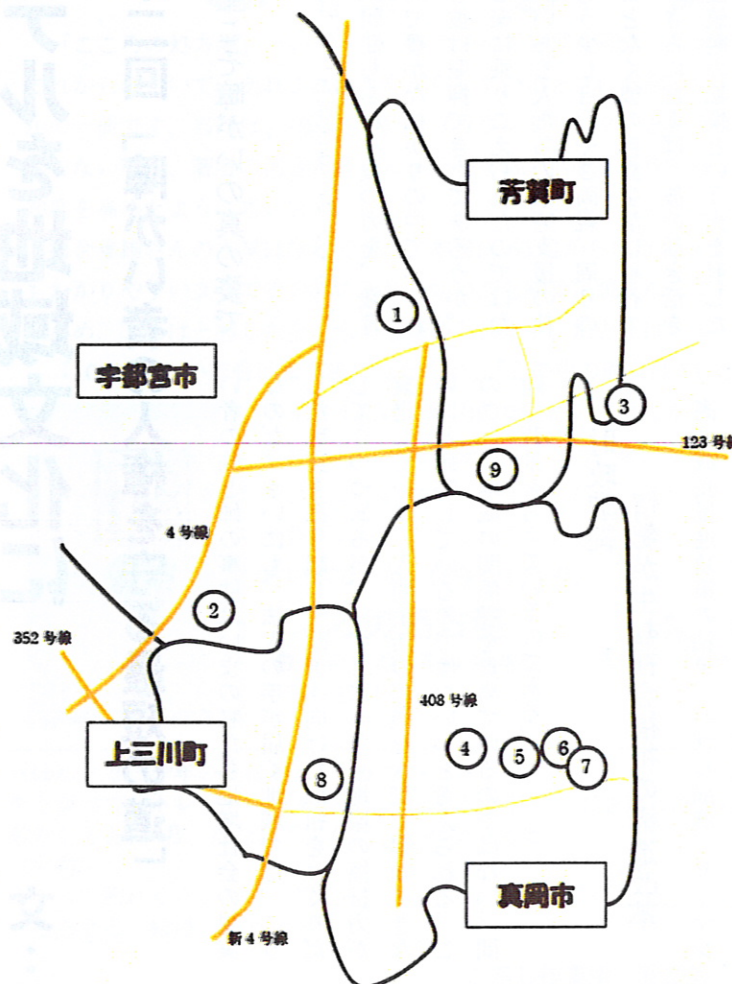
【責任者】 藤田勝春
 【編集責任者】 高橋温美
 【住所】 〒331-0902 宇都宮市柳田町一四〇一 番地

【発行所】 〒157-0073

東京都世田谷区砧六―二六―二二
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円

困ったを 良かったにかえる お手伝い
 社会福祉法人こぶしの会 事業所一覧



- 宇都宮市柳田町 1401
 こぶしの会法人本部
 028-613-3707 (F) 028-666-6128
 028-666-0418 (居住生活支援事業部)
 第2 けやき作業所
 028-680-5937 (F) 028-680-5938
- 宇都宮市茂原町 837-1
 こぶし作業所
 028-653-1020 (F) 028-688-1121
 障がい者生活支援センターこぶし
 028-613-5703
- 芳賀郡芳賀町祖母井 2244
 けやき作業所
 028-687-1040 (F) 028-677-5789
 地域活動支援センター「ほっとCHA」
 090-7820-9165
- 真岡市亀山 1043-23
 セルプ・みらい
 0285-81-1155 (F) 0285-81-1177
- 真岡市荒町 3-9-5
 県東ライフサポートセンター真岡
 0285-83-2567 (F) 0285-85-8055
 お菓子工房 ピケ
 0285-81-7091 (F) 0285-81-7092
- 真岡市荒町 111-1
 県東圏域障害者就業・生活支援センター
 「チャレンジセンター」
 0285-85-8451 (F) 0285-85-8452
- 真岡市荒町 110-1 市総合福祉保健センター内
 芳賀地区障害児者相談支援センター
 0285-80-7765 (F) 0285-80-7765
- 河内郡上三川町大字上三川 5082-15
 上三川ふれあいの家ひまわり
 0285-38-6821 (F) 0285-38-6841
 上三川町障がい児・者生活相談支援センター
 0285-38-6854
 アトリエ・ド・パン シュシュ
 0285-56-7731 (F) 0285-56-7732
- 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2
 おらがそば茶屋
 028-680-5091 (F) 028-680-5092

～編集後記～

○…あいかわらずの猛暑だが、今年の夏は節電のせいですますます暑い…
 暑いとおいしいのが、キンキンに冷えたビール(笑) 犬のえさ代と自分の
 ビール代くらいは稼げるよう、健康でなければ。(星宮)
 ○…今号も、無事に原稿を提出できました。関係者の皆様には、取材
 の際、お手間をとらせました。次回は、あなたさまのもとへ伺いする
 かもしれませんが、よろしく願っています。それにしても、暑い、い
 や熱い、熱い、、、(これ、句読点ではなく、汗です。)(高野)
 ○…サッカー観戦大好きな自分ですが先日のW杯予選の日は、それだ
 けではつまらないと、話題の東京スカイツリーを見物に。見上げる
 も怖いくらいの高さに圧倒され、今度はぜひ中に入りたくて決心。その
 日は日本代表も6-0の圧勝で、大満足な一日を過ごしました。(松本)

○…週末にひとりで千葉にはじめていってみました。マイナスイオン
 を浴びたり、自然のなかに身を投じて、気持ちが洗練された気にな
 って帰ってきました。旅・・・オススメします。(菊地)
 ○…今年になり、毎週日曜日フットサルの大会に出かけています。
 猛暑の中、体を動かすことはとても辛く、毎回体のどこかからの部
 分がこむら返りしています。また、日曜日ということもあり、次の
 日筋肉痛に悩まされるときも?何か疲労回復にいいものがありましたら
 ご連絡いただけませんか? (小野)
 ○…先月大学の友人に久しぶりに会いました。大学時代の話で盛り
 上がり、気分だけでも大学生に戻れました。毎年今年こそは、先生
 にも連絡してゼミのみんなで集まろうね〜と話していますが、今
 だ実現できてません。計画を立てないとダメですね・・・(篠崎)

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください(閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

社会福祉法人こぶしの会

平成二十三年事業報告・決算

大震災の揺れにも耐え、成果を生みだした事業所運営

昨年三月十一日に発生した東日本大震災は、日本国内にとどまらず、原発事故は世界にも影響を与え続けている。そのような中でスタートした昨年度のこぶしの会は、予定していた事業を見直さざるを得ないものもあつたが、多くの方からご支援をいただいたこともあり、上三川町での新たな事業所運営や、宇都宮地区でのケアホームの開設や、芳賀地区で初となる店舗運営の開始などの事業を推進することもできた一年となつた。

法人理念

- 一、地域社会の発展に貢献し、地域福祉の拠点となる施設づくり
- 二、福祉サービスの最適化
- 三、職員の働きがい、生きがいの実現

平成二十三年重点課題

- 一、利用者ニーズに依拠した個別支援計画の実施とプログラムの構築
- 二、職責に応じたOJTの構築を見直し、全ての組織において課題学習設定と実践
- 三、組織内・外の連携による、質の高い支援と共生の地域づくり

被災し、芳賀町を離れることとなつた

第二けやき作業所

いまは新たな一歩を歩みだしている

これまで第二けやき作業所は、芳賀町の稲毛田小学校跡を同町から貸与していただき、無認可の精神障がい者のための小規模作業所からスタートした。その後、法改正により、多機能型事業所として就労支援をひとつの特色とした事業所となり、毎年就職者を輩出し、実績を築いていた矢先の大震災であった。震災後は、旧こぶし作業所跡地へ仮移転し、新



おらがそば茶屋開店一周年記念(H24.6.24)
～pianoのヒーリングコンサートで大盛況～

たな地域でクロネコメール便を再開し、法人内の全事業所の生産活動を支える生産管理班も立ち上がった。また、日本財団様の助成金によって、おらがそば茶屋(芳賀町西水沼)を開店することができ、今日ではリーダーを呼ぶまでの評判となり、順調に運営されている。

生産活動事業の変更を余儀なくされ

法人スケールでの商品展開が始まる

セルブ・みらいでは、第二けやき作業所が被災したことにより、年度前に予定されていた事業を急遽転換することとなり、これまでご愛顧いただいていた「みらい弁当」をやめる苦渋の決断をした。

また、お菓子工房ピケでは、年度途中に立ち上げた販売促進プロジェクトによってこぶしの会の力を結集し、クリスマス・バレンタインの製造販売を行い、真岡地区のみならず、多くの地域の方に商品をお届けすることが可能となった。

地域のニーズにこたえる、そして掘り起こす

宇都宮・上三川地区では、上三川町より指定管理者の指定を受け、多機能型の施設「上三川ふれあいの家ひまわり」が開設された。就労支援事業だけでなく、障がい児の受け入れや、地域に暮らしている障がいのある方のニーズを掘り起こす、上三川町障がい児者生活相談支援センターも併設され、こぶしの会がすすめてきたはたらくことを中心とした活動だけではなく、生活に密接に関わるサービスを展開することができた。また、はたらく場づくりとして、パン事業の準備をすすめ、平成二十四年度五月二十二日に「アトリエ・ド・パン・シユシュ」をオープンさせた。地域の皆様のお気に入りをめざして好評営業中である。

シユシュ

オープン



その一方で、こぶし作業所が運営してきたキッチン・セルブ(とちぎ福祉プラザ内)とパグ・カフェ(宇都宮市一条)が閉店することとなった(プラザ内店舗は、他事業所が運営継続)。こぶし作業所としては、二店舗に代わる利用者の方の工資保証のための主力事業を新たに展開していかなければいけないという緊急課題が残ることとなった。

また、宇都宮市西川田にケアホーム「わたしん家」が新たに開設され、定員の三名が地域の中で生活されている。

利用者と職員の

「はたらく」を支えるしくみ

昨年度は、就労支援部において「生活介護の手引き」を作成し、法人全体の生活介護事業に所属する職員の支援の道標のひとつとなるものができた。また、就労支援マニュアルを作成し、施設利用を通しての「はたらく」、「自立する」支援を一体的に取り組んでいくための材料はつくられたのだが、それを活用するまでの実践までには至らず、課題として残った。しかしながら、年間を通じての実践交流会(教育研修委員会主催)の開催により、法人職員が事業所間や専門職間を超えて、一体的に同じテーマに沿って学び、考える機会がつけられた。

のべ二百二十三名の利用者

二百二十九名の職員を支える法人機能

財政黒字に転じたものの

求められているのはリーダーシップ
こぶしの会はこれまでの財政難から抜け出し、わずかながら黒字化の健全経営の兆しが見えてきた。これは法人機能を本部に集約し、財政管理を進めてきた成果ともいえる。

しかしながら、一方で、この三年試行錯誤の中で法人組織をたびたび改編してきたことで、法人組織の基盤が確立されず、想定していた成果が上からなかった課題が存在するのも事実である。さらに、支援の質について問われている中で職員参加で作成した各種マニュアルをいかに現場で活かし、実践につなげて検証していけるかが問われていると強く感じた。

そのためにも自分たち職員は、各事業所で、現場の課題と取り組みに責任を持つこと、法人はわかりやすく具体的な方針をタイムリーに提示することが必須のこととなる。こぶしの会が宇都宮地区、芳賀地区、真岡地区の広範な地域で法人理念を実現する大きな取り組みに全職員が深くかわり、チャレンジしていることの重要性をあらためて考えさせられた。法人機能の強化とは、目標とした事業計画がより質の高い成果を上げ、利用者地域に貢献する組織づくりを目指すものなのだ。延べ二百二十三名の利用者と二百二十九名の職員、さらにそれを取り巻く後援組織の願いに応える法人の地域福祉力を高めたい。これが二人の取材の結論である。

取材：菊地・星宮

⑤ 一般就労者の現在

チャレンジセンター発
一般就労者の現在

栗田弘明
チャレンジセンター
委託訓練基礎トレーニング科出身

この仕事は日によって働く内容が違いますが、まだミスをしたりはしません。そのたびに不安になりますが、それでもこの三年半の間の無職だった期間、自分を支えてくれた家族をはじめ、チャレンジセンターの人を含めた多くの人々のためにも、一日も早く仕事を覚えたいと思っています。

こぶしの会の事業所から、一般就労した仲間たちを紹介いたします。二回目は、栃木県立南那須特別支援学校(那須烏山市)に採用となった栗田弘明さんです。

私は平成二十三年八月から九月の二ヶ月間、チャレンジセンターの基礎トレーニング科に通いました。そこで、就職に必要な基礎を学び、卒業後もチャレンジセンターの紹介で実習を行いました。なかなか就職することができませんでした。しかし、チャレンジセンターから今年の六月に再度実習の話を受け、栃木県立南那須特別支援学校で行うことになりました。

二週間の実習を行い、七月から採用となり働いています。仕事の内容は校内の環境整備が中心です。

こぶしの会から就労していた仲間たちを、毎号紹介していきたいと思っております。お楽しみに!

取材・編集 松本 祐一

今回ご紹介する栗田さんが就職のために受講したチャレンジセンター基礎トレーニング科とは?

県の産業技術専門校からチャレンジセンターが委託を受け、2カ月にわたり就職に必要な知識・技能を習得し、円滑な就労をめざすプログラムです。



ギャラリー
こぶし
仲間の作品紹介

第二回目は県東ライフサポートセンター真岡の仲間たちの他の事業所に負けない、美味なる冷やし中華

栗田さん、自立できるようなための試みとして始めました(〇さん談)とのこと。

取材当日のメニューは、冷やし中華! 麺やタシはもちろん、ハムや卵、キュウリやトマトといった具材も買い揃え、本格的なおいしさに仕上がりました。

県東真岡は自主事業を行なっていますが、味はどこにも負けてません!

作品募集!!

こぶしの会を利用しての皆様の日頃取り組んでいることや、趣味、創作品などを募集します。採用された方には、取材をさせていただきます。このコーナーで取り上げさせていただきます。お待ちしております。

●問い合わせ先
県東ライフサポートセンター真岡
松本 祐一
(松本が三人いるので必ずゆういち宛にお願いします。)

☎〇二八五・八三・二五六七

平成23年度資金収支計算書(総括表) 平成23年4月1日~平成24年3月31日 (単位:千円)

活動区分・科目	会計区分	決算額	法人本部				
			1経理区分	5経理区分	13経理区分	4経理区分	1経理区分
収入	就労支援事業収入計	63,211	0	63,211	0	0	0
支出	就労支援事業支出計	69,540	0	69,540	0	0	0
	就労支援事業活動資金収支差額	▲ 6,329	0	▲ 6,329	0	0	0
福祉事業活動による収支	収入						
	自立支援費等収入	474,308	0	364,808	109,500		
	補助事業等収入	114,983	3,677	47,526	34,080	29,700	
	その他の事業収入	173	0	0			173
	寄付金収入	7,193	6,350	843			
	雑収入	7,843	2,691	3,822	1,329	1	
	借入金利息補助金収入	0	0	0			
	受取利息配当金収入	18	6	9	2	1	
	会計単位間繰入金収入	20,713	1,318	540	18,376	479	
	経理区分間繰入金収入	81,316	80,696	620			
	福祉事業収入計	706,547	94,738	418,168	163,287	30,181	173
	支出						
	人件費支出	413,997	60,800	221,032	108,073	24,092	
	事務費支出	83,009	18,805	42,168	16,142	5,811	83
	事業費支出	71,251	240	37,680	33,315	16	
借入金利息支出	2,630	829	784	1,017			
会計単位間繰入金支出	110,099	18,845	0	1,769		89,485	
経理区分間繰入金支出	0	12	81,367				
福祉事業支出計	762,365	99,531	383,031	160,316	29,919	89,568	
福祉事業活動資金収支差額	▲ 55,818	▲ 4,793	35,137	2,971	262	▲ 89,395	
施設整備等による収支	収入						
	施設整備等補助金収入	10,000	5,000	5,000			
	施設整備等寄付金収入	3,552	1,492	2,060			
	固定資産売却収入	7,874	0	1,740	6,134		
	施設整備等収入計	21,426	6,492	8,800	6,134		
支出							
固定資産取得支出	0	12,031	13,346	3,552			
元入金支出	0	0	0				
施設整備等支出計	28,929	12,031	13,346	3,552			
施設整備等資金収支差額	▲ 7,503	▲ 5,539	▲ 4,546	2,582		0	
財務活動による収支	収入						
	借入金収入	50,000	50,000	0			
	投資有価証券売却収入		500	0			
	積立金取崩収入	30,000	0	30,000			
	その他の収入	14	0	14			
	財務収入計	53,513	50,500	3,013			
	支出						
	借入金元金償還金支出	10,872	2,502	4,840	3,530		
	積立金積立支出	4,087	4,087	0			
	その他の支出	0	894	2,099	867	262	
財務支出計	19,081	7,483	6,939	4,397	262		
財務活動資金収支差額	34,432	43,017	▲ 3,926	▲ 4,397	▲ 262		
予備費	0	0	0				
当期資金収支差額合計	54,166	32,677	20,333	1,156	0		
前期末支払資金残高	112,966	32,116	76,821	3,943	86		
当期末支払資金残高	167,132	64,793	97,153	2,099	86		

平成23年度貸借対照表(総括表) 平成24年3月31日現在 (単位:千円)

科目名称	決算額			科目名称	決算額		
	前年度末	増減	前年度末		増減		
流動資産	261,363	251,376	9,987	流動負債	93,751	138,015	▲ 44,264
小口現金	313	360	▲ 47	買掛金	5,219	4,709	510
普通預金	83,405	54,945	28,460	短期運営資金借入金	0	34,000	▲ 34,000
売掛金	3,754	3,107	647	未払金	80,512	96,058	▲ 15,546
原材料	481	380	101	預り金	6,803	1,579	5,224
未収金	171,560	189,264	▲ 17,704	前受金	1,217	1,668	▲ 451
貯蔵品	0	15	▲ 15				
前払金	1,850	3,305	▲ 1,455				
立替金	0	0	0				
固定資産	734,527	768,571	▲ 34,044	固定負債	162,126	118,888	43,238
基本財産	603,338	637,381	▲ 34,043	設備資金借入金	92,490	100,860	▲ 8,370
建物	425,800	440,562	▲ 14,762	長期運営資金借入金	47,498	0	47,498
建物付属設備	83,928	91,162	▲ 7,234	退職給付引当金	22,138	18,028	4,110
土地	93,610	105,657	▲ 12,047				
その他の固定資産	131,189	131,190	▲ 1	負債の部合計	255,877	256,903	▲ 1,026
建物付属設備	11,232	23,363	▲ 12,131	純資産の部			
構築物	18,050	19,185	▲ 1,135	基本金	190,701	188,638	2,063
構築物及び装置	501	763	▲ 262	基本金	190,701	188,638	2,063
運搬用具	15,942	18,540	▲ 2,598	国庫補助金等特別積立金	415,043	440,787	▲ 25,744
運搬用具	20,732	4,786	15,946	国庫補助金等特別積立金	415,043	440,787	▲ 25,744
器具及び備品	14,986	19,124	▲ 4,138	その他の積立金	16,875	15,789	1,086
権利	1,027	1,160	▲ 133	設備整備等積立金	588	588	0
ソフトウェア	152	397	▲ 245	建設資金積立金	6,670	2,584	4,086
投資有価証券	9,500	10,000	▲ 500	移行時特別積立金	6,644	9,644	▲ 3,000
設備整備等積立預金	588	588	0	繰上り特別積立金	1,664	1,664	0
建設資金積立預金	6,670	2,584	4,086	修繕積立金	1,309	1,309	0
移行時特別積立預金	6,644	9,644	▲ 3,000				
繰上り特別積立預金	1,664	1,664	0	次期繰越活動収支差額	117,394	117,830	▲ 436
修繕積立預金	1,309	1,309	0	次期繰越活動収支差額	117,394	117,830	▲ 436
共済財団退職金預け金	22,138	18,029	4,109	(うち当期活動収支差額)	650	▲ 14,964	15,614
預託金	54	54	0				
資産の部合計	995,890	1,019,947	▲ 24,057	純資産の部合計	740,013	763,044	▲ 23,031
				負債及び純資産の部合計	995,890	1,019,947	▲ 24,057

毎度おなじみのたまみシュランです。
今回は、5月22日にオープンしたの
「上三川ふれあいの家ひまわり」のパン屋さん
「Atelier de pain Chouchou」
(アトリエ・ド・パン・シュシュ) に行ってきました。
シュシュとは、「お気に入り」という意味だそうです。
みんなのお気に入りを目指してがんばる現場に行ってみま
す。



まずは外観から。
外にはベンチもあります。
おしゃれー



アトリエ・ド・パン シュシュ ってどんなところ?

- ・何人が働いているの?
利用者11名と職員4名、15名が働いてい
ます。うち、お店に2名がいます。
- ・人気のあるパンベスト3は?
おじさんパン、ベーコンエピ、ミニ商品各種
ミニ商品はちょっと食べたい時にオススメ
です(50円〜)。
- シュシュでは、あんことピーナツクリーム
は手作りをしています。
- ・オススメパンは?
食パンです。
- ・パンが充実している時間帯は?
11時30分〜お昼の時間帯です。

店内に入ると、焼き立てパンのい
い香りと選ぶのを迷ってしまう
ぐらいのパンが並んでいます。



アトリエ・ド・パン シュシュ
上三川町上三川2959-1
TEL:0285-56-7731
FAX:0285-56-7732
営業時間:10:00~18:00
営業日:水曜日~土曜日
(祝日は休みです。)
製造担当:柴田 店舗担当:阿部

こぶしんぽ
パンザイ!!

こぶしの会を食べ歩き!

たまみシュラン

アトリエ・ド・パン シュシュ



おすすめ!!
食パントリオ(フレーシ・ゴマ・全粒粉)

上三川町に拠点を置いて2年目。
ついに念願のパン屋さんがオープンしました。
自分の暮らす町ではたらくことで地域に貢献し、生きがいを見つけ、稼いだ
お金で人生を作る。
大きなことはできませんが、小さな幸せをコツコツと積み重ねながらお気
入りの場所をみんなの力で作ります。応援よろしくお願いします。

工房に潜入!パン屋さんのお仕
事をおしえてもらいました。



取材同行者の感想と今日の採点です

感想の部屋



同行は上三川ふれあいの家ひまわり
地域活動支援センター利用をさ
れている左から矢野真由美さん・
田中香さん・猪瀬敏男さんです。



店内に運ぶのだって大切
な仕事です



おいしいパンがどんどんできてきます
焼き立てのかおりがたまりません。

に行ってきました~



分割して丸めていよいよ
成型です。



カレーパンを作っています。
きれいにパン粉をつけるの
てむずかしそう。



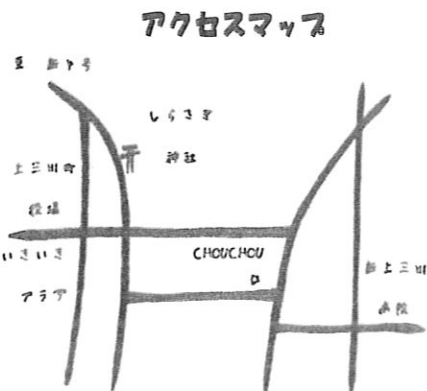
生地を仕込みます

採点の部屋

星 ★★ 2つ半

- ・良かったところ
 - ◎店内からパン作りが見れる
 - ◎営業時間が長い
- ・改善してほしいところ
 - ◎看板がないためわかりにくい
 - ◎移動販売をしてほしい

矢野:上三川にはパン屋がないか
らできてうれしいです。パ
ンの生地がどれももちも
ちしていておいしいです。
猪瀬:パンがすごくおいしいで
す。値段お手頃で焼き立て
パンを食べる事ができて
幸せです。
田中:食パンは買った次の日に食
べてもしっとりしていて
おいしいです。



定年↓ボランティア↓縁の下の力持ち— みらいの会(セルプ・みらい後援会) 会長岸勇次さん

岸後援会長は、仲間を笑顔にさせるマジシャン!

今回ご登場いただいたのはセルプ・みらい後援会会長岸勇次(きしゆうじ)さんです。定年退職後、地域のボランティア先を探していた時に「プール付き添いボランティア」に参加されたのをきっかけに、「セルプ・みらい」開所当時から、現在に至るまでの約十一年間お力を注いでいただいております。

障がいのある方をともに支えてくださっている方をご紹介します

きみはぼくのトモダチ



「おはよう」「元気かい?」

「岸さんが来た!」仲間たちが元気に挨拶に行きます。ひとりやふたりではありません。ほとんど全員が挨拶に行くのです。そしてその顔はみんな笑顔です。

岸さんがセルプ・みらいとかかわりを持ち始めたのは既述のとおりですが、いったいどんなマジックを使っているのでしょうか?と思うほどにみんなを引き付けます。

「仲間のニコニコ笑顔を見ると、私自身元気がます。」ああ、そうか!

「おはよう」「元気かい?」

岸さんの仲間を思う気持ちが、あいさつに、会話にじみ出ています。相手のことを本気で思い、ふれあうことがまたご自身の活力につながる。うらやましく、尊い存在です。

心配事は...

みらいの明日、地域との交流

岸さんは、地域とのかかわりをもっと大切にされています。人事異動によりセルプ・みらいの歴史をもった職員がいなくなり、地域との交流がなくなっているのではないかと心配も口にされていました。

仲間と地域のことを考え、行動し、より良いみらいにしたいという思いを強く感じました。岸さん、これからはよろしく願います。

取材:小野



施設の活動日に木工細工を教えていただきました。岸さんも仲間も職員もイキイキしています。

活動報告①

実践交流会

(3回シリーズの第2回目)
 ～みんなの力を仲間の自立に活かすために～

平成二十三年度から取組んでいる実践交流会の第二回目が平成二十四年六月三十日に行われました。三回を一つの区切りにした目的は、各職員が持つ目標や課題を一回だけの報告だけに終わらせることなく、目標や課題をグループとして取り組み、さらに実践を通じた内容を発表・評価しあうことで、グループで



人権分科会の熱い討論風景

の力量を高めてゆくというものがあります。また、三回目にはグループ目標の達成度を全体のものにするため、全体発表や来年度への事業計画に盛り込めるようまとめあげてゆきます。

もちろん「実践交流会」ですから、普段の実践が大切になります。紙面の都合上すべてはご報告できませんが、以下のようなことが二回目には確認できました。

「危機管理グループ」

他部署と情報共有についての仕組みをつくり、即時対応しなければならぬことへの取組みができるようになった。

「コミュニケーショングループ」

新人職員が多いグループでしたが、言葉や行動の裏にある「本心」に気付いたり、その上での信頼関係ができたという実践が報告された。

全十グループで構成される実践交流会ですが、それぞれが支援の質を上げ、利用者・職員とも地域に必要とされる存在として活動するための一助となることを期待しています。

(教育研修委員会 実践交流会担当・先瀬)

活動報告②

スタッフネットワークに 職員の皆さんの参加を

「スタッフネットワーク」(スタッフボード)は、スタッフ(職員)の日常業務をパソコンと情報技術を使って支援する仕組みです。

スタッフネットワークの目標

- ・ 日常業務の円滑化
- ・ 日常業務の効率化
- ・ 日々の情報の共有化
- ・ 情報の蓄積と活用
- ・ スタッフ同士の連携やコミュニケーションの円滑化を図る

こぶしの会は、地域社会の要請に応え組織を拡大してきました。業務の拡大や事業所の増加に伴い、業務のより円滑な実施と福祉サービスの質の向上などの課題が見えてきました。また、法人組織の改編にあたり、スタッフの日常業務への支援

(情報共有化プロジェクト担当・亀田)

社会モデルを地域文化に

第二回 「障がい者の人権を守る最短の道」

文：高橋温美(こぶしの会常務理事)

環境が作る障壁こそ障がいの真の姿ではないか

振り返るに、彼の障がいとは何だったのかと思う。家庭で築きあげた人間性あふれる彼の力を、教育の場でさらに社会的で豊かな拡がりの中でつくれたらどのような力を彼は発揮できたであろうか。祖母の死ももう少し楽に乗りこえられたのではないだろうか。重い障がいがある人たちの家庭支援の社会資源があれば、もう少し自分やご両親、周りの人たちを傷つけることなく彼の自立生活に移行できたのではないか。さらに言えば、彼の生き活きと働く姿は、私に価値観の転換という光を射したように、地域の健常者?の多くを励ましたに違いない。障がいの見方を社会モデル(環境のバリアーこそ障害をつくるもの)として意識しだしたころの感慨である。

人間生活の危機を救うもの

それは地域福祉力

今、法人に3つの生活相談支援センター(就労・生活支援センターを含めると4箇所)があり、障がい者が一生を家庭で介護せざるを得ない日本の社会状況の中で、家庭の介護力が破綻し、生命の危機寸前とも言えるケースが毎日のように報告される。今年に入って早々報道された札幌の障が

い者の妹と姉の事件はいまの私たち地域社会の現実なのだ。幸いにも、法人の手が届く地域では、こうした現実を掘り起し、改善へ向けた取組をつくりだしてきつつあるが、いずれにしても地域の福祉力が衰退してきて、人間生活の危機を水際で察知できないほど疲弊しているのではないかと考えられる。このことは地域の関係者を責めているのではない。問題の背景を考えているのである。

財政破綻
情勢が生む社会福祉の構造改革

高度成長推進政策の結果、バブル崩壊、リーマンショックによる国、地方の財政破綻。以来、基礎構造改革という名の日本のあり方の大転換がされてきた。その結果、地域のライフラインは合理化が進み、人々の暮らしは寸断されてきた。シャッター街を典型とする地域経済の疲弊や農業の衰退。自営業者や中小零細企業経営者や農業者はいわば地域コミュニティのまともな役割でもある。ここが崩壊しつつあり、人々の暮らしは孤立化している。

社会保障・社会福祉も例外ではなく構造改革に見舞われた。社会福祉サービスの民間委託、生活保護制度の見直し、介護保険法とその流れをくむ障害者自立支援法もその一環である。

実らなかった「骨格提言」、いま私たちができること

ひとつひとつのことに言及する余裕はないが、格差社会の中の貧困の実態が明らかになり、その反動の中で政権交代、新たな制度改革が展開されそうだという期待が高まる中で、またぞろ大震災をきっかけに情勢は逆戻りしてきた感がある。障がい者分野では、障害者の権利宣言を法律に反映するという政府方針に基づき、障害者制度改革推進会議を設置、三年にわたり五十五人の当事者・家族・団体代表で構成した総合福祉部会によって、あたらしい法律案のたたき台である障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言(骨格提言)がまとめられ、今国会で成立の予定であった。それが、骨格提言の本旨がほとんど反映されない、名前を障害者総合支援法と変えただけの法律が、たったの三時間のやりとりで第一八〇国会で可決成立してしまった。骨格提言の本旨である、障がいを社会モデルとしてとらえる視点が欠如してしまい、人として生きる(人権を守る)ために不可欠な福祉サービスが、個人の受益として位置づけられてしまった。これが障がい者の置かれていく毎日現状であり生活(文化)なのだ。このことを変えるには、毎日、毎日の私たちの生活に人権で満ち溢れた形を刻んでいくことが最短の道程かもしれない。

(以下次号)



こぶしづかん
こぶしの会に生息するゆかいな職員のおすすめの本を毎回紹介するよ。

取材：高野 満

「こころの処方箋」という本は、私の子が思春期を迎え、子育てや自分自身のこれからについて、あれこれ考えを巡らしているときに出会った、数ある本のなかの一本です。当時は、「臨床心理士」「カウンセリング」という職種がまだ一般的でない頃で、著者の河合隼雄さんがその多数の活動、著作を通して、社会的認知度を高めたように思います。いわば、この分野の開拓者のひとりです。

河合隼雄さんの本業は学者ですが、本書は55編から成るエッセイ集です。とてもわかりやすい文章で書かれてあり、始めから順番に読まなくても、目次をざっとながめ、ここはと感じたところから始められます。たとえば・・・



「100%正しい忠告はまず役に立たない」「心の中の勝負は51対49のことが多い」などなど、タイトルだけで魅力的だと思いませんか? 常識的な考えや周囲のことばにまどわされ、振りまわされていた皆様の「こころ」を、やさしく解きほぐしてくれると思います。私自身、今でも、こころの中がモヤモヤしたり、イライラしたり、何かしっくりこない時など、こころの中を整理し軽くしてくれる、まさしく「こころの処方箋」です。



こころの処方箋
●河合隼雄/著 ●新潮社
刊/1,470円



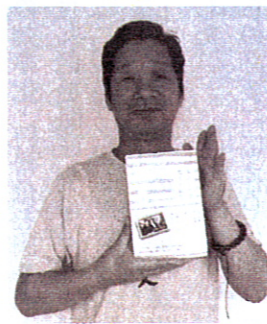
芳賀地区障害児者相談支援センター

篠崎定子

「ほんとうに今年の夏は君といられて・・・」
そう言って、トレードマークのちよっとたれた目で、私を真っ直ぐに見つめる。私のことを、「君」だなんてよんだことのない父だ。
(中略)
ちよっと照れくさい思いで答えると、父ははっきりこう言った。
「そろそろ、結婚しようか・・・」

こぶし作業所 看護師 鈴木 吉宗

パパがパパでいてくれるのは、あと何年、いや何カ月なのだろう...高齢社会と呼ばれる今日、このような衝撃をうけるのは、この本の著者(山口美江さん)だけではないはず。さらに、山口さんの場合は、16歳のときに急性白血病で母親を亡くし、以来、父と二人暮らしをしてきました。本書には、そうした山口さんの父親への気持ち、自身の苦悩と葛藤、それから友人たちの協力、励ましなどが、切実に語られています。ぜひ、皆様に一読していただきたいと思います。



余談になりますが・・・じつは数年前、山口さんが横浜中華街で営んでいる雑貨店に、家内とふたり、ぶらりと出掛けたことがあります。その当時、山口さんはテレビのニュースキャスターを突然降板し、アルツハイマーの父の看護に専念の気持ちで固めたところだったのですが、事情を知らないわたしは、「テレビと同じ顔だなあ・・・」などと軽口をたたき、家内に笑われたものでした。後に、この書物が出版されたことを知り、速攻で書店に走ったというのですが・・・いまでも、この本を手取るたびに、小じんまりとした店の奥で、静かに頬笑みかけてくれた山口さんの面影がまぶたの奥にのみがえります。

女ひとりで親を看取る
●山口美江/著 ●ブックマン社
/1,400円

